

平成29年度宮崎県特別支援教育研究連合知的障がい教育研究部会

－ 第3回理事会 －

－ 第3回九特連宮崎大会実行委員会 －

議事録

日時：平成30年2月9日（金）

午後2時～4時

会場：県立みなみのかぜ支援学校

司会（山之口教頭 T）

記録（1・2 西山 T・3 西内）

1 開会行事

（1） 会長あいさつ（橋本校長 T）

本日は、すべての理事が出席。いよいよ30年度九特連大会、本日協議を深められると幸い。

学習指導要領改訂解説も公開され、障害種別の支援、手立てが具体的に表記された。総則の中にも教育支援資料という名称が明確にされた。自立活動についても解説の中に資料として明確に書かれていることは大きな変化であり、小中学校支援学級で行われている特別支援教育と特別支援学校で行われている教育とのつながりが新学習指導要領の中で見えてくる。今後も、お互いの学校の教師同士の連携が深められるとよい。知的部会は、それができる唯一の組織でもあるので。今日の会は説明等も長くなるかもしれないが、その都度質問などしていただき、各地区へ持って帰っていただければ。

（2） 配付資料確認（森本 T）

2 第3回理事会

（1）平成29年度知的部会事業報告（p 1～2）（西内）

資料通り

（2）平成29年度知的部会収支報告（p 3）（柴下 T）→日南くろしお支援学校：佐藤 T より

別紙資料で、研究大会の会計報告あり

消耗品費のオーバー分について・・・弘済会助成金から支出する予定だった、研究大会会場費が無料となったため、弘済会助成金の使途として認められている消耗品（次年度九特連大会）の購入にあてた。

今後、九特連大分大会事務局引継ぎ会会議費や郵送費等で支出がある見込み。

研究大会会計報告（日南 佐藤 T）

研究大会会場費空調代が予算計上されていたが、実際には減免申請で無料となった。消耗品、切手など購入して未使用のものは、事務局に返却。

(3) 平成31年度知的部会研究大会について (p 4～7) (西内T)

西内：本来なら、研究大会実行委員長の方で進めるべきであるが、部会の在り方を含めて協議事項等もあるため事務局で進行する。資料の該当ページを一読。

第2回理事会では、欠席者も多かったが、今後の研究大会の方向性について検討し、看護大学での実施が妥当ではないか、その際、8月しか会場が借用できないので、8月開催の県特連大会と本部会の研究大会の時期を入れ替えていただくようお願いをしていくことで確認をした。しかし、看護大学も管理者の変更があり、会場費が値上がり。看護大学での開催もハードルが高くなった。そのため、再来年度以降の大会の在り方について、検討の時期にきている。

会長：知的部会の前身は、小中特研にある。特殊教育の会として設立しており、九特連、全特連ともつながっていた。そこに、知的の特別支援学校が参加させてもらうかたちであった。今後の会の在り方について、また、小中学校の先生方のおかれている実情等も含めて教えていただけるとありがたい。

司会：小中学校の支援学級の数も増え、通常の学級における特別支援教育の対象児童・生徒数の増加や対応が困難になってきている、また県特連の在り方、現状もふくめて、様々なご意見をお願いしたい。

会長：どこを論点とするか難しいので、例を挙げると、現在の県特連の形になる以前は小中特県の持ち回り開催の時もあった。現在は支援学校が主になって実施している。運営をしていくうえでこのことで、問題視していることがあればご意見をお聞かせ頂きたい。

小野T：平日開催の研修会の場合、小中学校の場合は特支担当2～3人いる学校も多いが全員が参加することは難しい。夏休みの開催の方が参加はしやすい。今のように県特連大会と知的部会研究大会2つの大会が近いので、どちらかにしかいけない場合もある。研修の機会があるとありがたい。

司会：特別支援学校の先生方は？今年度研究大会実行委員長、実際運営されて感想などどうか？

佐藤T：小中学校の先生方の日々の授業実践にプラスとなる内容にすることに重点をおいて開催した。会場が前年度早い段階で決まらなると事務的な業務が進められない。会の在り方について今後について考えるよい機会かと。

隈田原T：スタッフ数が多いため特別支援学校が事務局になることはわかるが、小中学校の先生は、地区ブロックの会の役員も兼ねている方が多い。そのため、小中学校の先生方は、学校をあけることがとにかく難しいので、負担感を減らしていく方向を考えていく必要がある。

水野T：県北ブロックの事務局の兼任。もともとは小中特研が主体であるところからスタートしているときいている。市町村学校の市教研と特別支援学校とのタイアップもありか。出張旅費の問題もあり、県北からは県央での大会に参加が難しい面も大きい。なので、地域での研究会の方が、求められているのではないか。ブロック部会を強化していくことが必要なのではないか、ただ今後、高等学校（高校・・・今後取り込んでいく必要ある）がブロック部会だと取り込みにくいのかも？県特連だと県の組織なので、すんなり取り込めるのかもしれないが。

また、発達障がいについてはニーズが高まっているが、どう対応していくのかという問題もある。最新情報等を勉強していく場がほしい先生方は多数いらっしゃる。

大田原T：イチ知的学級担任としては、第1回目の研究大会(暑い体育館でエアコンなしで行われ

た)に初めて参加したときに、授業実践につながる内容を勉強することができありがたい大会と感じた。支援学級の担当者は、講師の先生と初めて担当するという人が多いのが現状。どうしたらよいのか分からないと悩んでいる人も多く、大変ニーズは高いと思う。ただ、内容的に発達障がいがどんどん入ってきて、コーディネーターとして学校そのものを動かしていく業務も兼ねているが、担当地区はコーディネーターの横のつながりがないので、ブロック大会を活用して話し合いをしたりしている。支援学級担当者とコーディネーターと一緒に集う会がないので困っているところがある。

小野T：小中は知的と情緒の組織がある。元々は知的がほとんどで情緒は平成12年からスタートして一気に広がり現在は、知的の学級より多い。そのため、つながりがうまくいっていない面がある。

H26全特連大会の開催にあたって、県特連に相談した際には、県特連はすべての障がい種の部会を併せ持つ組織であるため、障がい種別のそれぞれの部会の運営には携わらないとはっきり区別している感じがあった。

会長：イチ部会として考えるのではなく、県特連組織改編を含めて研究会の在り方を考えていく時期にはきている。本部会としては、平成31年度に関しては、知的部会の研究大会をお休みする形をとり、今後の在り方を検討していくことを了承いただきたい。

県特連大会の日程は毎年8月のはじめの開催が恒例で、これは、県の小中学校校長会と毎年重なっている。管理職の先生方に特別支援にもっと関わっていただくためにも特連の大会の開催日程等も検討が必要。

ここで承認していただいたことを、22日開催の県特連理事会にて、知的部会の31年度について、その他伝達することを了承いただきたい。

(4) 平成30年度知的部会事業計画案 (p 8～9) (西内)

資料どおり。

3 その他 第4分科会「合理的配慮の実際」→第7分科会に訂正

(5) 平成30年度知的部会予算案 (p 10) (柴下T)

資料通り

会長：小中特研からは、例年1万円をいただいているが、会の規模から考えると増額をお願いしたい気持ちはある。

(6) 平成30年度理事選出について (p 11～14) (西内)

平成30年5月18日(金)までの回答をお願いしております。(FAX送信票)

各地区の御都合により期日に間に合わないときは、連絡をお願いします。

次の理事となられる方へ、引継ぎを確実に行ってください。

(7) 平成29年度以降の九特連・全特連大会提案者等について (p 15) (西内)

次年度以降の引継ぎの資料として伝達をお願いしたい。

3 第3回九特連宮崎大会実行委員会

九特連「大分大会」報告(小野T・西山T)

西山T：大分大会11月16・17日、大会参加者のアンケート回答のご協力ありがとうございました。宮崎大会に向けて生かしていく。大会に関わった人420名、スタッフからも参加費を徴

収。予算が厳しいため、研究大会冊子を大会に参加しない方にもお金を徴収してまかなった。スタッフにはお弁当のみ配布。7つの分科会で、一番人気のあった分科会は、第3分科会「教科別の指導」で65名の参加があった。2番目に人気の分科会は第7分科会「自閉症スペクトラムへの対応」で64名の参加だった。参加者は、大分以外120名の参加があり、来年度の宮崎大会では、県外参加者120名を予定している。大分大会をうけて、今後の宮崎大会運営にいかしていきたい。

大分大会写真（別紙資料）

小野 T：大分大会写真資料をみての説明。

1日目の昼の記念講演会、夜のレセプション（情報交換会）がありその様子などの説明。

2日目分科会についての説明。

(1) 平成30年度九特連研究大会「宮崎大会」1次案内再送付について（西内）

平成29年9月の校長会で配布しましたが、「宮崎大会」の参加者増員協力のために、再送付をお願いします。どうしても難しい学校については、理事会終了後に直接西内までお知らせ下さい。

(2) 業務計画について（p16～17）（西山 T）

資料通り

来年度の計画 ☆印が実行委員会先生方に参加してもらう日程。

5月は県立学校職員のみ。新役員へ引継ぎをしっかりとお願いしたい。今後特別支援学校に理事以外のスタッフの協力をお願いしていく。

隈田原 T：11月大会前日は準備は必要ないのか？

西山 T：15日は午後からなので、午前に準備をする。

(3) 平成29年度会計報告（p18）（柴下 T）

資料通り

(4) 分科会提案者、司会者（p19）（森本 T）

資料通り

森本 T：発表者空欄で、が決まっている場合は教えてください。

中島 T：7分科会 司会者 北方学園中 甲斐香代子

森本 T：未定のところ、また新たに決まったところは早めに事務局に連絡ください。

(5) 動員について（p20～21）（森本 T）

大会の参加大会費参加費3000円で県内から200名、県外と合わせて300名を考えている。各地区の特別支援学級を考えての参加者の依頼の動員資料です。動員数は実行委員を除いての数を示しています。1日参加でも3000円を徴収する。参加者が満たない場合は実行委員からも参加費を徴収することになるため、各地域での動員参加の協力をお願いしたい。

中島 T：平成26年度の全国大会は、各学校での開催だったため協力ができたが、今回は宮崎地区43名とあるが、遠い場所や、学校数や人数の割に割り当て人数が多い場合はどうなるのか？

隈田原 T: 児湯るびなす支援学校の場合、要請されている4名のスタッフに加えて発表者、司会、理事を足して職員数63名のうち7名参加となるが、そういうことでよろしいか？

西山 T: そうです。

中島 T: 大会参加で西臼杵の延岡からは一人で2日の参加は難しい。学校が変わって1日目は他の学校、2日目は他の学校と入れ替わることはいいか？1日参加でも3000円になるのか？入れ替わった場合は動員が2ということになるのか？

水野 T: 支援学校の場合、同一校での職員が1日目2日目と入れ替わっても3000円で資料は1冊を共有できるが(入れ替わりは同一校での入れ替わりは可)、小中学校の場合は、学校に支援学級は1、2名の職員しかいない、そのため学級を2日もあけることは難しい。また資料の受け渡しや、領収書の記載など問題点がでてくる。

西山 T: 1日目、2日目と入れ替わった場合、動員は2になるが、予算の関係上入れ替わった場合はそれぞれ3000円参加費を支払うことになる。(検討の余地あり)

中島 T: 会参加で宮崎の参加は43名と多い、西臼杵からが5名は難しいため、宮崎からの参加がしやすい場合は、宮崎から多く出てもらえるとありがたい。やりとりはどうなるのか？

西山 T: 事務局の方でとりまとめるのは難しいので、それぞれの地区同士で話し合っていたきたい。

4 連絡

(1) 各係より

なし

(2) その他

名古屋大会の1次案内があり、支援学校の先生方は学校へもちかえってください。各地区の理事の先生方は会の時に紹介をお願いします。今回宮崎からの提案はありません。2次案内については全部の学校に配布します。(西山T)

5 閉会行事

(1) 副会長あいさつ(榎木田校長 T)

お疲れ様でした。最後の会、夏の知的部会の計画、秋の九特連大会、次年度の準備などありがとうございました。九特連の事務局の先生方の準備もどんどん進んでいます。知的部会の研究大会についてはこれまでの経緯、特連、校長会などを通して考えていく。次年度は持ち場が変わっていく場合もあるが、よろしくお願ひしたい。

特別支援教育研究2月号の紹介、本日はありがとうございました。お疲れ様でした。